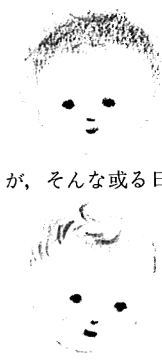


おおとくちゅうる

H・K



帰宅時電車待つ間の、のれんかき分け豆腐一丁を相手のコップに呂の字、湯気を通してしばしの談笑——とは、しがないサラリーマン風景の一コマだが、そんな或る日の話である。

「あのね、今朝乗り合わせた学生の子やりとりにね、難しいのがあったよ。海の字を五つ並べて何んで読むんだんだ。わがっけえ。おら全々見当もつかながった。正解はアイウエオだぞ。

海女のア、海豚のイ、海胆のウ、海老のエ、海髪のお。ゆわれでみっといがにももつとも」

「なあー。そんなら子の字六つでは」とおかみ。「獅子の子・子獅子だっべ」「おあいにくさま、猫の子・子猫」「あっ、そうが。そうしつとね、学生の話を引きでだ年配の人が口をはさんだ。俺が学生の時うだった歌でヤッコラヤのヤ節ちゅうのがあったっけえ。櫻という字を分解すれば、二階(二貝)の女が気(木)にかかる。この伝で、戀はいとし(糸)いとしと言う心、松は君(公)と僕(木)との差し向かい——なんてね。もつとも当用漢字では歌にもなんねがな、ど」



「インスタント。これなんざあ、今どぎ、ガギから梅干まで知んね者あねえが、語源となつとどうだっべ」「?」「ダイナマイトはダイナム・アイト、ドンキホーテはドン・キホーテ。そこで、

インスタントもイン・スタンドが本命だっというんだな。立っているうちに——つまり即席だ。タチマチ、タチドロニっていう言葉もあんが、だがらつて、ラーメンが続いたんでは似合わめえ」

「そういえば、タチマチは17日の晩に出る月の呼び名でもあったが、インスタントではこれ又味も素っ気もなぐなつちやーな」



「あんた、だいふもの知りのようだが、ここのおかみさんのような人を小股が切れ上がったいい女っていうべ。あの小股が気にかかるんだがね」

「うまいこといったつて、お代はお代だかんね」

「それについては、以前文豪連中の小股談議っていうのを雑誌で読んだことがあんが、脱線問答で結論なし。要するにだね、モモとモモとの間がより多く切れ上がっている意

味のような。大体日本の女性は今まで×××だよな。それで、オヒップの位置が高く、それなりにすらりと均整のとれた小意気な感じの女性をいったもので、背の高い低いには関係ねえね」「小股すくいつちのは?」「ひどくこだわんだね。あの小は有っても無くてもいいの」「ほんとがあ。ああそうだ。この酒ね、酒に上戸と下戸とあつべえ。あれは?」



「あれは、一寸むずかしい。なにしろ大宝律令がからむがんね。その昔、上層下層の階級区分を上戸と下戸としたんだ。それを酒呑みに当てたいわばスラング。上戸で思い出したが、液体をつぐジョージ、あれもよく呑むがんな」

「あのねお客さん、ついでに学のあるとこで、トラを説明してもらいましょう、トラをよ」「呑んだら乗るなが。先ず酒だが、昔中国の銘酒に竹葉酒というのがあつて、日本ではささつてゆつて、後には酒のことをささつとゆつたそうだ。ところで梅に鶯、竹に虎だつべえ。つまりは中国伝来。酔虎伝ちゅうとこがな。それがら、左利きとか左党というなー、金鉦と遊女町との関係だ。景気のいい金山関係者で遊女町が繁昌し、山言葉が流行つて、世間に広まったもんで、ノミ手は左だ」



「毎日話している言葉も取り上げてみつと面白れいもんがあんだな。あれは戦後間もねえ——急に英語が巾をきかせ始めた——その頃だつたっけ。銀杏坂でガマの油売りの口上を聞いた時にね、お立ち合いといつとこを、オブザーバー諸君といつたのには感心したね」

「そんなふうにして外来語が生活の中にとけ込んできたんだつべーな。外来語だつていわれなければ分かんねがね。背広なんて漢字で書かれつとなおさらだよ。ジュボンがジューバンとズボンの上下に分かれて日本語になつてるなんちのも妙なはなしだ」

「この間きーだ話だが、近頃ファッションや化粧品にむやみやたらとあちら語がつかわれんね。オートクチュールつてのがあつべえ。あれがなんと、日本語のオオ特注で、それが逆輸入したんだつちけな。あれ、時間だぞや。帰つべえ」

〔参考〕

秋山 一著「語源の酒」

てるおか やすたか著「すらんぐ」

藤堂 明保著「漢字の起源」



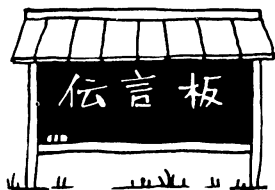
【新着資料案内】

この資料は、昭和55年12月中に行政資料室に到着した主なものです。ご利用下さい。
行政資料室 付属庁舎4階 TEL 0292-21-8111(内線426)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央官公庁関係		昭和54年度 交通安全対策の実施状況	茨城県交通安全対策会議
昭和55年版 公務員白書	人事院	観光レクリエーション基本計画	観光物産課
総理府統計局関係法令集	総理府	第二次茨城県農業振興の基本方策	農政企画課
第30回日本統計年鑑	〃	昭和55年度 水田利用再編条件整備 特別対策事業費等補助金交付要項	営農再編対策課
昭和55年版 警察白書	警察庁	産地直結取引育成事業の概要	流通園芸課
昭和54年度 統計調査技術開発研究報告書	行政管理庁	昭和55年度 果樹推奨品種特性表	〃
昭和55年版 防衛白書	防衛庁	昭和54年度 新しい農業者の育成	改良普及課
昭和55年版 県民所得統計年報	経済企画庁	農地調整年報	農地管理課
昭和55年 筑波研究学園都市要覧	科学技術庁	昭和55年度 地籍調査事業概要	農地計画課
第2回 自然環境保全基礎調査	環境庁	濁沼川総合開発事業計画書	河川課
管内経済統計年報	大蔵省	茨城県港湾関係例規集	港湾課
昭和54年度 学校基本調査報告書	文部省	茨城県第4期住宅建設5箇年計画策定 基礎調査報告書	住宅課
昭和54年 ゴム製品統計年報	通商産業省	昭和54年度 茨城県公営企業会計決算書	企業局
昭和54年 窯業統計年報	〃	昭和55年度 茨城県立高等学校入学者 選抜実施状況報告	教育庁総務課
昭和54年 プラスチック製品統計年報	〃	昭和54年度版 茨城県教育要覧	教育庁企画室
昭和54年 生コンクリート統計年報	〃	昭和55年版 茨城教育便覧	〃
昭和54年 建材統計年報	〃	みんなで行く社会教育の集い手引書	教育庁社会教育課
昭和54年 エネルギー統計年報	〃	昭和55年度 P T A指導者研修会資料	〃
第31回 労働統計年報	労働省	昭和55年度 勤労婦人社会教育講座資料	〃
昭和54年 毎月勤労統計調査 総合季節調整済主要労働経済指標	〃	昭和55年度 茨城県「高校生の船」資料	〃
昭和54年 労働経済の分析	〃	青少年ボランティア育成講座	〃
昭和22年9月 洪水報告	建設省	昭和55年度 図書館概要	茨城県立図書館
茨城県関係		県内市町村関係	
昭和55年度 茨城の調査業務 図書目録追録(1),(9)	茨城県議会議事事務局 茨城県議会図書室	昭和55年版 統計ひたちおおた	常陸太田市
原子力発電所等周辺の防災対策について	原子力安全委員会	昭和55年版 統計きたいばらき	北茨城市
昭和55年度 主要事務事業執行計画書	財政課	国土利用計画(常澄村計画)	常澄村
第二次茨城県民福祉基本計画フレーム資料集	企画調整課	〃(八郷町計画)	八郷町
茨城県過疎地域振興計画	地域振興課	新八郷町総合計画進捗状況	〃
茨城県過疎地域振興計画 参考資料	〃	'80守谷町勢要覧 伸び行く守谷	守谷町
茨城県同和对策総合計画	社会福祉課	都道府県関係	
昭和54年度 業務概要	茨城県立リハビリ テーションセンター	昭和54年 商業統計調査結果報告書	北海道統計課
青少年のための施設ガイドブック	総合県民室	昭和54年 毎月勤労統計地方調査年報	秋田県統計課
昭和54年度 青少年行政のあゆみ	〃	昭和54年 山形県消費者物価指数	山形県統計課
昭和55年度 茨城県交通安全実施計画	茨城県交通安全対策会議	昭和53年 山形県統計年鑑	〃

【新着資料案内】

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
昭和52年度 福島県市町村民所得	福島県統計調査課	昭和54年 大阪府統計年鑑	大阪府統計課
昭和53年度 福島県水産要覧	福島県水産課	昭和53年度 大阪府沿岸漁業等の動き	大阪統計情報事務所
昭和53年度 福島県海面漁業漁獲高統計	〃	図解 労働経済指標	大阪府統計課
昭和55年版 統計からみたわたしたちの姿	栃木県統計課	昭和54年 毎月勤労統計地方調査結果報告書	奈良県調査課
統計からみた郷土のあゆみ	〃	第6次 漁業センサス調査結果概要	和歌山県統計課
昭和54年における群馬県の賃金、労働時間及び雇用の動き	群馬県統計課	昭和54年 毎月勤労統計調査地方調査報告	鳥根県統計課
昭和54年 埼玉県の賃金、労働時間及び雇用の動き	埼玉県統計課	昭和54年度 岡山県人口の動き	岡山県統計課
昭和54年 工業統計調査結果報告書	千葉県統計課	1980 徳島の水産	徳島県水産課
昭和54年 千葉県の人口と世帯	〃	昭和55年 香川県統計年鑑	香川県統計調査課
昭和54年 東京都世帯階層別生計調査年報	東京都統計部	昭和54年 大分県の賃金労働時間雇用	大分県統計課
昭和54年 神奈川県消費者物価指数	神奈川県統計調査課	公社・会社・団体等関係	
昭和54年 工業統計	石川県統計情報課	昭和55年版 業務統計年報	国民金融公庫
昭和54年 毎月勤労統計調査結果報告	山梨県統計課	茨城県教育財団文化財調査報告	教育財団
昭和55年度 水産の現況	静岡県水産課	竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査	〃
昭和54年 あいちの賃金、労働時間及び雇用の動き	愛知県統計課	常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査	〃
昭和54年 商業統計調査結果報告書	〃	鹿島線関係遺跡発掘調査報告書	〃
昭和53年 愛知の県民所得	〃	昭和54年度 埋蔵文化財発掘調査報告	〃
昭和55年 愛知県統計年鑑	〃	家庭教育研究所母親教室講演集あゆみ	小平記念会
1980 統計でみる府民のくらし	京都府統計課	中小企業の効率経営	東京商工会議所
		昭和55年 賃金改訂状況	〃



県内市町村の人口を 全国と比較してみると？

先月号の本欄で、昭和55年国勢調査全国速報から見た茨城県の人口趨勢を紹介しましたが、今月号では県内の市町村について全国と比較してみます。

全国では、3,256市町村のうち半数以上の1,743市町村でこの5年間に人口が増加しており、詳細は略しますが、全般的に人口増減の大きい市町村の数が減っています。

さて、まず人口増加率ですが、市で増加率の高いのは大都市の周辺市が多く、全国1位は埼玉県坂戸市(50.9%)。本県では取手市(34.9%)が5位に入っています。町村では4町村で人口が2倍以上になりましたが、学園都市で人口急増を続ける桜村(132.9%)が全国1位となり、続いて葦崎村(103.4%)が3位、また美浦村(65.5%)10位、利根町(51.3%)20位と、4町村が上位20傑に顔を出しています。

人口減少率については、本県の市は全て増加、減少した町村でも減少率は低く、特記することはありません。ちなみに減少率の全国1位は、市が北海道夕張市(16.8%)、町村が石川県尾口村(44.1%)です。

次に県庁所在都市について見ると、水戸市(人口215,563人、増加率8.9%)は盛岡市に次いで40位です。なお41位は大津市(215,318人)、最下位は山口市(114,744人)。

ところで、市部と郡部の人口比率を見ると、全国平均で市部人口が76.2%と総人口の4分の3以上に達しています。本県は同48.7%で、47都道府県でただ1県微かながら郡部が市部を上回り、市域の拡大等のため断定はできませんが、最も人口の都市化の進んでいない県と言えるでしょう。

最後に付け加えると、今回の調査の結果、広島県五日市町(人口87,326人)をはじめ、全国6町で人口が5万人を突破し、千葉県浦安町、四街道町では早くも市への名乗りをあげています。